

ぎょうむそくほう

【ダイジェスト】

No.675

2025年5月1日

東海旅客鉄道労働組合

<https://www.jrtu.jp>



『ハートフルカンパニービジョン ⇒2027』の取り組み推進！



Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION

経営懇談会を開催

2024年度期末決算について議論

過去最大の運輸収入！過去最高の連結・単体での経常利益・当期純利益！

Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION

5月1日、「2024年度（2025年3月期）期末決算」について経営懇談会を開催した。冒頭、会社から、この一年の組合員の努力、成果への感謝と、本年の大阪・関西万博輸送をはじめとした各種取り組みへの期待が示された。

決算概況として 2024年度の運輸収入は、東海道新幹線・在来線ともにご利用が堅調に推移したため、前年と比べ増収となり、過去最大となった。また、グループ会社についても増収となり、連結営業収益は増加した。営業費については、グループ会社における売上原価の増等により増加したが、増収・増益の決算であることを確認した。

なお、当期の期末配当については、昨年4月に公表した配当予想に対して1円増の1株当たり16円とし、次期の配当予想についても、中間・期末ともに1株当たり16円とすること、株主還元の充実および資本効率の向上を目的に、自己株式の取得及び取得株式の全数消却を決議したことも確認した。これを受け、ユニオンは、株主だけでなく社員・組合員も会社にとって重要なステークホルダーであり、社員・組合員にも継続的に還元すべきであることを主張した。

その他、経営懇談会では、当期の経営成績に関する会社見解や2025年度事業運営の見通し等について詳細に確認した。とりわけ、運賃・料金への価格転嫁の必要性や、中央新幹線計画での現場で働く組合員の想いを強く主張し、労使間で今後に向けた議論を展開した。

JR東海ユニオンは、様々な課題の解決へ向けて、主体的に取り組んでいく。

□2024年度（2025年3月期）期末連結決算の概要

	実績	前年度との差異	前期比
営業収益	1兆8,318億円	+1,214億円	107.1%
営業費	1兆1,290億円	+260億円	102.4%
営業利益	7,027億円	+954億円	115.7%
経常利益	6,492億円	+1,023億円	118.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,584億円	+740億円	119.3%

※確認内容の詳細については、後日発行の「ぎょうむそくほう」をご確認ください。